

エビ目(十脚目)テナガエビ科

ミナミテナガエビ

Macrobrachium formosense Bate, 1868

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

南方系のエビで、近年、県内の中小規模河川での生息確認の情報が集まってきている。生息環境は人為的影響を受けやすく、今後も分布域や生息状況の動向に注目する必要がある。日本海側では、隠岐諸島で確認されており分布の北限と考えられる。

【概要】

体長90-100mm。メスはオスよりも小型。はさみ脚は著しく長く、特に成熟したオスでは体長の2倍ほどに達する。テナガエビによく似るが、はさみ脚に生える剛毛は少なく(テナガエビは剛毛が密生)、歩脚の指節は太く短い(テナガエビは細く長い)。生時には頭胸甲側面に太い3本線の横縞模様があり(テナガエビは不規則

な模様)、見分けることができる。繁殖期は3~9月頃。淡水性両側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。房総半島以南、南西諸島、台湾、小笠原に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

過去に県中部・西部、隠岐諸島で記録があり、近年では、県東部のほぼ全域でも生息が確認されている。日本海に面する中小規模河川で、河川床にある大きめの転石下や川岸の植物の中などに生息する。

【存続を脅かす原因】

農薬や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

エビ目(十脚目)テナガエビ科

ヒラテテナガエビ(ヤマトテナガエビ)

Macrobrachium japonicum (De Haan, 1849)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵26

【選定理由】

県内では日本海に面する中小規模河川で生息が確認されているが、生息地域は限られ、生息数も少ない。日本海側では、隠岐諸島で確認されており分布の北限と考えられる。

【概要】

体長70-90mm。はさみ脚はミナミテナガエビに比べるとかなり太く、上下に扁平で断面は円筒形。オスのはさみ脚は体長の1.5倍ほどに達する。額角は木の葉状で、上縁には9~12個の歯があり、眼窩より後ろには4~5個の歯がある。下縁には4~5個の歯がある。生時の体色は不透明な茶褐色で、目立った模様はない。淡水性両

側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。遡上能力は比較的高く、おもに河川の上中流域に分布する。本州中南部以南、四国、九州、南西諸島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部で記録があるほか、近年では、県中部や東部の中小規模河川や隠岐島前でも生息が確認されている。日本海に面する河川上中流域で、水がきれいで流れがあり、河川床にある大きめの転石下や流木の下などに生息する。

【存続を脅かす原因】

農薬や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

エビ目(十脚目)ヌマエビ科

ヒメヌマエビ

Caridina serratirostris De Man, 1892

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵26

【選定理由】

県内では日本海に面する中小規模河川で生息が確認されているが、生息範囲は狭く、他のヌマエビ類に比べ生息数が少ない。

【概要】

体長10-20mm。オスはメスよりも小型。額角の上縁には約20~23個の歯がほぼ等間隔に並び、眼窩より後ろの頭胸甲上に7~8個の歯がある。下縁には普通5~6個の歯がある。生時のメスの体色は、全体が赤褐色で背面の正中線に幅広い1本の白っぽい帯があるものと、紫がかかった褐色と灰白色の横縞が交互にあるものの2型がある。成体は河口より上流側の比較的水のきれいで、流れ

の緩やかな場所に生息する。淡水性両側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。日本海側では能登半島が分布の北限記録である。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部で記録があるほか、近年では、県中部や東部、隠岐島前でも生息が確認されている。水のきれいな河川下流域で、岸辺の植物の周りや落葉の堆積するような環境に生息する。

【存続を脅かす原因】

農薬や化学物質などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○								○					○					○

エビ目 (十脚目) ヌマエビ科

ヤマトヌマエビ

Caridina multidentata Stimpson, 1860

【選定理由】

県内では日本海に面する河川のごく一部で生息が確認されているのみで、生息範囲は限られ、生息数もわずかである。日本海側では、隠岐諸島が分布の北限。

【概要】

体長30-40mm。額角は短く、上縁には13~27個の歯が並ぶが、眼窩より後ろの頭胸甲上にはない。生時には体側に褐色や赤褐色の縞模様または点々模様があり、尾部には青色の斑紋がみられる。繁殖期は2~9月頃。淡水性両側回遊型でゾエア幼生は海で育ち、稚エビは河川を遡上する。おもに河川上流域に分布。遡上能力は高く、河川の最上流部まで遡上する。東アジア沿岸が分布の中

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○					○					○					○

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵26

島根県固有評価：-

環境省：-

心で、千葉県 (太平洋側) および島根県 (日本海側) 以南の国内、韓国、台湾などに分布。ペット用のエビとしても人気が高く、熱帯魚店などで販売されている。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部や中部で記録が残っているが、近年、生息を確認しているのは県東部の小規模河川の上流域と隠岐島前のみである。渓流域の堰下の転石や垂下植物の周辺に生息している。

【存続を脅かす原因】

農薬などによる水質汚染、コンクリート護岸化、ダム、堰堤の建設などによる生息条件の悪化。業者による乱獲。

エビ目 (十脚目) ヌマエビ科

ミナミヌマエビ

Neocaridina denticulata (De Haan, 1844)

【選定理由】

近年、韓国や中国から釣り餌などとして輸入される近似種との交雑などが懸念される。

【概要】

体長10-28mm。額角は長く、上縁には8~20個の歯がある。下縁には0~9個の歯がある。前側角部には棘がある。生時の体色は、透明感のある暗褐色や暗緑色で、背側の正中線にオリーブ色の縞模様はいる個体もいる。湖、池、沼、水田の用水路、流れの緩やかな河川の中流域に生息している。一生を淡水域で生活する。大卵型で、ふ化した幼生はそのまま淡水域にとどまり、親と

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○				○	○				

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵26

島根県固有評価：-

環境省：-

同じ底生生活にはいる。家庭用水槽でも容易に繁殖が可能なエビであり、観賞用として広く販売されている。

【県内での生息地域・生息環境】

本土のほぼ全域で生息が確認されている。近年では、隠岐島後でも生息が確認されている。用水路や流れの緩やかな河川の中下流域で、水草が生い茂る場所に特に多く生息する。

【存続を脅かす原因】

釣り餌や観賞用の近似種の逸出や交雑、農薬や化学物質などによる水質汚染、親水工事や河川改修による生息条件の悪化など。

エビ目 (十脚目) コブシガニ科

マメコブシガニ

Philyra pisum De Haan, 1841

【選定理由】

内湾の潮間帯域にごく普通に生息しているが、近年、生息条件が悪化し、生息数が減少傾向にある。

【概要】

甲幅20mmほどの小型種。甲は半球形をしており、表面には顆粒が散在する。額、前側縁、後縁に歯はない。はさみ脚は比較的長大で、長節は顆粒に富む。歩脚は短い。おもに干潟や内湾の比較的きれいな砂底や砂泥底の潮間帯に生息している。生時の色彩には、個体差が大きい。繁殖期には、オスがメスを抱いている (交尾前ガード)

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○																					○	○

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵26

島根県固有評価：-

環境省：-

姿を見かける。本種は横ではなく縦方向に歩くことが知られている。岩手県以南、九州、韓国、中国北部に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

おもに宍道湖・大橋川・中海などの汽水域で生息が確認されている。内湾に広がる砂底や砂泥底の潮間帯付近に生息する。

【存続を脅かす原因】

生息地の人為的改変や良好な底質環境の減少などによる生息条件の悪化。

甲殻類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ベンケイガニ

Sesarmops intermedius (De Haan, 1835)

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵26

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

個体数・個体群の減少、生息条件の悪化。

【概要】

甲幅35mmほど。甲は四角形で、前側縁には深い切れ込みがあり、眼窩外歯を含めて2歯ある。甲やはさみ脚、歩脚は赤橙色をしているが、濃淡には個体差がみられる。河口域のヨシ原や土手、石垣、草原などに生息。昼間は巣穴の中や転石、流木、ゴミなどの下に隠れ、夜に活発に活動する。水辺の暗く湿った環境を好む。冬場は土手になどに掘った巣穴の中で冬眠する。抱卵したメスは、

川や海に移動してゾエア幼生を放つ。房総半島・男鹿半島以南、インド・西太平洋沿岸に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県本土および隠岐諸島の日本海に面した河口域や淡水が流入する海岸で確認されている。土手に掘った巣穴や石垣、転石のすき間、ゴミの下などに生息する。

【存続を脅かす原因】

河川改修やコンクリート護岸化による生息地の消失、護岸による海への移動経路の消失など。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○															○	○		○